

1 ボタンピ末

2 定量法の項を次のように改める。

3 定量法 本品約0.5 gを精密に量り、メタノール40 mLを加え、
4 還流冷却器を付けて水浴上で30分間加熱し、冷後、ろ過す
5 る。残留物は、メタノール40 mLを加え、同様に操作する。
6 全ろ液を合わせ、メタノールを加えて正確に100 mLとする。
7 この液10 mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に25
8 mLとし、試料溶液とする。別に定量用ペオノール約10 mg
9 を精密に量り、メタノールに溶かして正確に100 mLとする。
10 この液10 mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に50
11 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液10 μ Lづ
12 つを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフィー
13 (2.01) により試験を行う。それぞれの液のペオノールのピ
14 ーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

15 ペオノールの量(mg) = $M_S \times A_T / A_S \times 1/2$

16 M_S : 定量用ペオノールの秤取量(mg)

17 試験条件

18 検出器 : 紫外吸光度計(測定波長 : 274 nm)

19 カラム : 内径4~6 mm、長さ15~25 cmのステンレス
20 管に5~10 μ mの液体クロマトグラフィー用オクタデ
21 シルシリル化シリカゲルを充填する。

22 カラム温度 : 20 $^{\circ}$ C付近の一定温度

23 移動相 : 水/アセトニトリル/酢酸(100)混液(65 : 35 :
24 2)

25 流量 : ペオノールの保持時間が約14分になるように調
26 整する。

27 システム適合性

28 システムの性能 : 定量用ペオノール1 mg及びパラオキ
29 シ安息香酸ブチル5 mgをメタノールに溶かして25
30 mLとする。この液10 μ Lにつき上記の条件で操作す
31 るとき、ペオノール、パラオキシ安息香酸ブチルの順
32 に溶出し、その分離度は2.0以上である。

33 システムの再現性 : 標準溶液10 μ Lにつき、上記の条件
34 で試験を6回繰り返すとき、ペオノールのピーク面積
35 の相対標準偏差は1.5 %以下である。

36

37